

第66回 しずない農業協同組合通常総会開催

全7議案原案通り可決される



により株価持ち直し、円安など一定の成果が挙げられているものの、景気回復は大企業・大都市に限られ、地方までおよんでおらず、多くの国民は景気回復を感じられていない状況の中、原油価格の高値止まり、飼肥料等の高騰が続く中、4月から消費税8%の引き上げと相まって、更に生産コストの上昇は避けられず、農業経営への影響が懸念される所です。

また、昨年3月に安倍首相がTPP交渉参加を表明し、その後、参加国との協議がなされておりましたが、目標とされていた年内妥結には至らず、今年に持ち越されています。米国の二国間交渉における隔たりは大きく、今後、国益を損なう譲歩を迫られかねず、予断を許さない状況にあります。

TPP交渉は、21の分野にもおよびます。国民の暮らしや地域社会への影響は計り知れず、交渉の行方

4月10日、新ひだか町公民館において「第66回 しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。冒頭挨拶において、片岡禹雄前代表理事組合長より「国内経済においては、安倍政権が推し進める経済再生対策、いわゆる「アベノミクス」

よっては地域社会崩壊が危惧されます。経済偏重の政策は生命の源である食料を他国に委ねることとなりかねず、国民の食生活に不安を抱かせるものであります。



今後、難航しているTPP交渉において、聖域の約束をなし崩しに反故にするようなやり方は断じて許されるものではなく、重要品目の関税維持を強く求め、国益を損なう交渉・妥結を許さない運動を展開して参らなければなりません。

当組合における昨年度の農畜産物の取り扱いについては、18億1800万円の計画に対し、2億1400万円増の20億3200万円とな

り、昨年に引き続き過去最高の取扱高となりました。

そ菜の主力であるミニトマトにおいては、需要の増加・安定出荷・契約販売などにより、収量は計画を下回ったものの、総じて高値取引となったことから7億5259万円となり、3年連続して7億円の台となりました。

生産者の品質向上と安定供給への取り組みが実を結んだものと敬意を表する所です。

また、複合作目として奨励してきた黒毛和牛も高値取引が続いたことから、販売計画対比8370万円増の4億8150万円となり、基幹作目のひとつになりつつあります。生産農家のためめ努力と関係機関のご支援、ご協力の賜物と深く敬意を表する所です。

今後とも農家経営安定化に向け、戦略作目としてミニトマト、黒毛和牛の生産拡大に取り組んで参ります。

ホッカイドウ競馬は、昨年79日間の開催を終え、販売額は計画対比109.9%の140億1743万円となり22年ぶりの黒字となりました。Aiba静内の移転、Aiba祭の開催による集客増加など地元関係機関・団体の特段のご協力、ご支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。競馬人気の低